

北条高校関係のお問い合わせと県教育委員会の考え方

①「昼間2部定時制及び通信制の具体的な内容はどのようなものか。」

【昼間2部定時制】午前部・午後部から選んで授業を受ける

授業時間帯【イメージ】

	8:30～12:30				13:00～17:00			
午前部	①	②	③	④	●	●		
午後部			●	●	①	②	③	④

①～④：正規の授業（全員） ●：追加の授業（希望者）

学びたい授業を申請して学習

・文理探究系列を新設し進学に注力するとともに、情報ビジネス、生活科学、生活福祉、芸術の系列を引き続き設置します。

・生徒が、自分で選んだ時間帯に、自分で申請した授業を受け、大学進学や就職など、それぞれの進路実現を目指すことができます。

・他部の授業を追加したり、通信制での学習を活用したりすることで、3年間の卒業も可能です。

全日制を志願する生徒でも行きたいと思うような学校を目指します。

【通信制】レポート提出とスクーリング（登校日）で学習

・登校（スクーリング）は年間30日程度

・レポート・スクーリング・テスト合格で単位認定

※（例）現代の国語（2単位）：半年でレポート6回提出、スクーリング2回出席

愛媛風早高校（仮称）の魅力化

多様な生徒の未来につながる**昼間二部定時制・通信制高校**

自分で授業を選ぶ【総合学科】 【普通科】

授業時程【イメージ】

	午前部	午後部
8:30～12:30	受講 ①～④	希望者
13:00～17:00	希望者	受講 ①～④

○1日4時間授業が基本
○他部の授業や通信制の併用により3年での卒業も可能

このような生徒が学んでいます（他県の例）

学びなおしをしたい

朝は弱いけど午後なら通える

子育てと学業を両立させたい

働きながら学びたい

大学受験に向けて受験勉強に特化した生活を送りたい

全日制を志願する生徒でも行きたいと思う学校

部活動も可能（全日制の大会にも出場可能）

心安らぐ部屋（多目的ルーム・カフェ・相談室）

新しいタイプの学校で**高校卒業と進路実現をサポート**

②「今回の振興計画案において総合学科の評価が非常に高いと感じるが、その理由と北条高校で入学生数が減少した総合学科が東温高校で上手くいくとされるエビデンスは何か。」

東予・南予の総合学科校の志願倍率は周辺と同規模校よりも高く推移

○北条高校の入学生数の減少要因は「総合学科であるから」ではないと考えています。

→総合学科3校の過去5年間の平均志願倍率

新居浜南：0.88倍（新居浜地区5校中3位）

北条：0.61倍（松山・伊予・上浮穴地区13校中13位）

川之石：0.80倍（八西・西予地区7校中2位）

○松山市中心部の大規模校への志願者数増加や私立高校の授業料実質無償化などの影響が大きいと考えています。

東温高校における現状のコース編成が、総合学科への改編にマッチ

【現状】多様な類型・コースを設置

・普通科5類型（理数・人文・英語理解・生活文化・スポーツ健康）

・商業科2コース（マネジメント・ビジネス）

【改編】現状の多様性を発展させた教育の推進

・総合学科7系列

文理探究・英語理解・社会共創・スポーツ

医療福祉・生活科学・情報マネジメント

東温高校の魅力化

現行の多様なコースを発展させた進学重視の総合学科

普通科

理数

人文

英語理解

スポーツ健康

生活文化

商業科

マネジメント

ビジネス

総合学科

文理探究

英語理解

NEW社会共創

NEWスポーツ

NEW医療福祉

生活科学

情報マネジメント

高いレベルの大学進学を目指す

語学力の向上による大学進学

地域の新しい価値を生み出す

スポーツ分野のリーダー養成

介護福祉士など医療従事者の養成

調理・被服など実技中心の学習

ICTスキルを身に付け経営に生かす

松山市内の公立・私立に負けない
地元で進路実現を目指す高校

2

- ③ 「北条高校全日制総合学科の入学生数が減少に転じてからこれまで、教育委員会としてどのような対策を講じてきたのか。」

北条高校に限らず、県全体の志願者数が減少

○県立高校志願者数の推移（H28～R4）

入試年度	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	R 2	R 3	R 4
志願者数(県計)	9,212	8,790	8,545	8,576	8,030	7,554	7,980
志願者数(北条)	149	136	111	121	94	70	81

学校の日頃の教育活動の充実に加えて、県教委が実施する様々な事業の指定校とし、学校の魅力化に取り組んでいます。

（参考：北条高校が指定校等となった主な事業）

R 4：心の教育推進校、えひめ未来マイスター育成事業

R 3：学校総合防災力強化推進事業

R 2：主権者・消費者教育推進事業、視聴覚教育、SDGs推進人材育成事業

R 元：視聴覚教育

H30：活性化プロジェクト（地域を担う心豊かな高校生育成事業）

H29：高校生職場定着促進事業、金融教育

- ④ 「北条地区に在住する生徒が徒歩や自転車で通える全日制高校がなくなってしまうことで、通学にかかる費用負担が増えることが懸念されるが、一人親世帯など経済的に困窮する家庭などへの支援策は今後検討されないのか。」

交通費等の支援については、公平性や財政面の観点から困難

○北条地区の中学生の8割以上が、北条高校以外の高校へ通学しており、通学圏の範囲に多くの高校があることから、計画の対象となった他の地区と同様に、特別の支援は考えていません。

○旧70市町村単位でみても、北条地区のように全日制高校がない地区は49%（旧34市町村）ありますが、これまでも通学支援は行っており、該当地区全ての生徒への支援は困難です。

○経済困窮家庭に対しては、別途奨学金制度が適用可能。

→高校生等奨学給付金【給付】

愛媛県母子父子寡婦福祉資金【貸付】 など

⑤

「なぎなたやレスリング、吹奏楽など、全国トップレベルで活躍している部活動の存続はどのように考えているのか。」

○生徒数の減少が続く中、北条高校をこのまま存続させたとしても、新しい再編整備基準（入学生が3年連続80人以下で募集停止）により、近い将来に募集停止となる事態が想定されており、結果として部活動も存続ができなくなります。



○愛媛風早高校（仮称）を設置することで、地域に学校が残ります。また、**昼間定時制でも全日制と同様に部活動は実施**し、これまでと同様に、**全日制の大会に参加することも可能**です。

○なぎなた部やレスリング部などが愛媛風早高校（仮称）で存続が難しい場合は、必要に応じ中予地区の別の高校に設置することも、部活動関係者等と検討します。

⑥

「校名変更についてなぜ必要なのか。」

新しいタイプの学校としてスタート

○愛媛風早高校（仮称）は、昼間二部定時制と通信制を兼ね備えた愛媛県初の画期的な学校となります。新たなスタートを切るにあたり、全県域を意識した新校名に変更することも検討してはどうかと考えています。

準備委員会（R5設置）において（現校名を含め）検討

○校名については、令和5年度以降に設置される準備委員会（市町行政関係者・学校関係者・地域住民等で構成）において、検討していくこととなります。

○北条地域の中学生も含め多くの方からの意見を伺いながら、**今後入学してくる生徒に長く愛されるような校名にしたい**と考えています。

⑦

「松山市ではあるものの旧北条市として一市一町の魅力化推進校として存続はできないのか。また、松山市として捉えたとすれば、旧松山市内に集中する県立高校を北条高校に統合する意見や考えはなかったのか。」

【魅力化推進校について】

- 魅力化推進校は、**1市町に必ず1校を、自動的に認めるものではありません。**島しょ部など**交通困難地域に立地している学校**を中心に、
 - ・**今よりも発展できるというビジョンが明確に描け、その案が現在の案と同等以上になること**
 - ・**ビジョン実現に向けて必要と思われる支援や理解が、市町や地域から得られること**の**二つの条件をクリア**できる学校を、**あくまで特例的に認定**するものです。
- 松山市の魅力化推進校については、**島しょ部にある松山北高校中島分校を認定**することとしています。

【旧松山市内に集中する県立高校に対する意見について】

- 近年は、授業料実質無償化の影響もあり、**旧松山市内校が不合格の場合は私立高校へ進学する生徒が多くな**っており、旧松山市内校の学級数を減じても、周辺校の志願者が増える流れにはなっていません。

※過去5年間の志願者数は、旧松山市内6校（松東・松南・松北・松中・松工・松商）全体で約180人～380人の定員オーバーであるのに対し、旧松山市周辺7校（北条・砥部・中島・東温・上浮・伊農・伊予）全体で約180人～430人の定員割れとなっている。

⑧

「地域協議会において意見を聞いたとされているが、今治方面からも多数の生徒が通っている現状を踏まえ、今治方面の意見も聞いているのか。」

どの地域でも、生徒は市町を越えて高校を選択できます。

- 北条高校に限らず、生徒は市町を越えて高校を選択しています。
- 地域協議会では、どの地区においても主として当該地区内の学校の在り方について協議されており、今治・越智地区において、北条高校についての協議はされませんでした。

※今治市から北条高校への入学生数は、過去5年間平均で、年19人程度います（今治市内の中学校卒業生数：過去5年間平均1,269名）。このことから、今治市の生徒にとっても北条地区は十分に通学圏内であると見込めることから、県内唯一の昼間定時制を設置するには適した地であると考えています。

⑨

「そもそも北条高校は廃校になるのか。」

【校名を変更する場合】

○準備委員会で校名を変更することとなった場合、新しい昼間二部定時制と通信制を併置した学校が開校する令和8年度に北条高校は募集停止となり、全日制の最後の在校生が卒業する令和10年3月に閉校となります。

○ただし、北条高校のこれまでの名簿等のデータについては、新しい学校にきちんと引き継がれます。

【校名を変更しない場合】

○準備委員会で校名を変更しないこととなった場合、上記と同様に全日制については令和8年度に募集停止となりますが、北条高校としては継続することとなります。